

## 朝比奈川「かあ～らの会」伝統的河川工法の視察



朝比奈川 岡部町子持坂、村良



島田土木で聖牛の模型で勉強



川根町家山の河川敷

ふるさと「かあ～らの会」(子持坂地区の住民を主体として、活動団体と岡部中学校、岡部町が組織する団体)は岡部中学校の近くの朝比奈川の河川改修に合わせて、「ふるさと体験の場」を会が主体的に地域の人たちと協力して計画づくりを進めています。

岡部町子持坂 (平成14年7月)

### ふるさとの山と川づくり物語

自然と仲良く、自然の宝庫を上手に残して、上手に生かして、緑と潤いのふるさとをつくらう!!



古老達は、「ふるさと体験の場」づくりの中で、昔、洪水から自分たちの村を守るために村中が総出で、川の近くにある竹を使って蛇籠を編み、「だし」(水制: 棚牛)をつくってみお筋を替え、被害を最小限に抑えたことを思い出していた。古老達は、自分たちの地域の宝物を子ども達に残そうと「だし」の復活の研究に余念がない。



中川根町平谷の大聖牛を視察

今回は、伝統的な河川工法の視察に島田土木を訪れ、大井川に復活した大聖牛を見て朝比奈川にもいつの日か「だし」を復活したいと誓っていた。

## 「ふるさと体験の場」づくり 岡部町子持坂

### 協賛各社

黒川医院 菅ヶ谷内科医院  
青島歯科医院 (株) 松浦恒産  
岡歯科医院 小柳津久男事務所  
(有) 桑原モータース  
佐野設計工房一級建築事務所  
服部歯科医院音羽町診療所  
(株) エクノスワタナベ  
(株) 山田組 大鐘測量設計

### 瀬戸川フォーラム ネットワーク団体

しずおか流域ネットワーク/志太自然ネットワーク  
森林組合おおいがわ/静岡県島田土木事務所  
瀬戸川 朝比奈川非出資漁業協同組合/ふるさと建設の会  
大井川流域ネットワーク/水土里ネット大井川/志太エコクリエイト  
NPO法人 VIT/NPO法人 里の楽校/(社) 藤枝法人会

瀬戸川フォーラムのHPもご覧ください。http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/  
瀬戸川通信 編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦  
島田市中央町31-10 TEL 0547-36-0706

## 川のみらい・地域のみらいについて考える情報紙

# 瀬戸川通信 第18号

発行 瀬戸川フォーラム 平成17年 3月31日



瀬戸川 宮原グランド前 桜堤

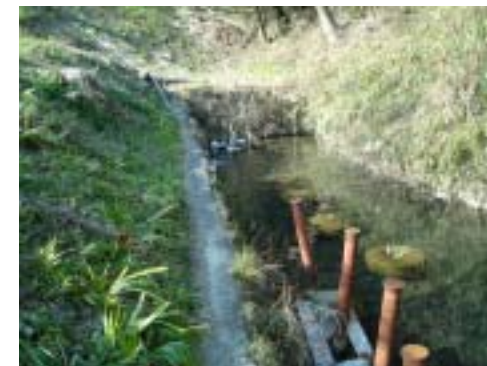
## 元井戸 復活?

2月6日音羽町の片山さんから「元井戸が枯れた」との連絡を頂き、すぐに駆けつけてみると元井戸(金吹橋上流左岸)の水位が下がり、下流の小川は完全に干上がっていました。これまでほとんど枯れることがなかった元井戸や小川に水が無く、そこにいた生き物たちはほとんどが死んでしまったのか姿を見つけることができませんでした。下流の小川ではウナギやカワニナの死骸だけが残り小魚は鳥に食べられたのか見つかりませんでした。



干上がった元井戸下流の小川

水が引いてから1週間程度経っていたかもしれませんが、原因はと見渡してみると瀬戸川の上流で「藤枝バイパス」の橋脚補強工事が行われていました。工事では水替え工事により元井戸の近くまで水位を下げ、排水するための水路が深く掘られていて地下水水位が極端に低くなっていて、これが直接の原因と考えられました。地元の片山さんの



2月6日の元井戸

機転により、河川管理者である島田土木事務所や道路公団に連絡をして頂きすぐに水中ポンプによる応急の給水が行われました。片山さんは2年ほど前、瀬戸川フォーラムが地域の人たちと元井戸のことを話し合いをしたときに元井戸が地域にとって大切なものとして認識を深め、いつも散歩をしたときには元井戸を観察していたそうです。



2月6日の瀬戸川と片山さん



2月13日の元井戸と小川

その後、道路公団の早急な対応のおかげで地下の伏流水の道も戻り事なきを得ましたが、事前に工事関係者にもこの「元井戸」の情報は伝えられていたようです。もう少し配慮が行き届いていれば、多くの生き物が生息していたことを考えると残念です。しかし、地域の人々がこの元井戸について関心を深めてもらうきっかけになったとしたら少しは報われるのかと感じました。

## 守りたいのは命、残したいのはきれいな水と空気

### 瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。

心なごむ  
ふるさとの川を  
「知る・楽しむ  
・守る」





# 第2回環境教育シンポジウムin志太榛原!



## エコマネー勉強会

平成17年2月26日 (土)  
13:00 ~ 藤枝市役所5F大会議室

### 基調講演「エコマネーってな～に！」

富士常葉大学 流通経済学部 教授 酒井直彦氏

酒井先生には、「エコマネー」の仕組みと実践事例、意義について分かりやすくお話を頂きました。

#### エコマネーって？

地域やある共同体で発行するお金、その共同体の中で流通するお金、思いやりや感謝の気持ちを反映させる「あたたかいお金」

#### エコマネーの目的

「人間関係の信頼から出発し、それをより大きく確固とした関係に築き上げる」メンバー(地域住民)間に信頼関係をつくる 取引活発化 信頼関係は拡大 地域活性化につながる

#### 富士常葉大学の事例「ちゃちゃ」

<背景(大学キャンパスの特徴)>

教育研究機関として役割が明確で共有 直接的な市場メカニズムの市場的な利益に 還元することは排除すべき (お金に換金しない)



構成員が学生、教員、職員と限定 価値で計りにくい価値追求の場

#### <キャンパスの傾向>

人間関係が極めて限定的 グループ外とは会話のきっかけが少ない  
時間的余裕の欠如 アルバイトに求められる責任が増加の傾向  
IT(携帯・パソコン・メール等)による伝達手段の多様化にも拘らず乏しい交流的確な表現や基本的な会話の欠如

#### <キャンパスでの使い方>

Aタイプ: 依頼事項の実現手段 (本来の使い方)

「してほしいこと」「してあげられること」のメニュー表に基きサービスを交換し「ちゃちゃ」を支払う

Bタイプ: 他者に対する思いの伝達表現手段 (コミュニケーションツールとしての使い方)

周囲の人に対する感謝、お詫び、励まし、称賛等の気持ちを表現し伝達する。

#### エコマネーの事例から学ぶもの

共通なものとして以下を上げられていました。

緩やかな結びつきの志向 適正な人間関係の距離の保持「縁側の関係」「しがらみ町内会に風通し」  
長期的継続の重要性 短絡的な効果より「きっかけ作り」、人とのつながりの拡大自体に価値を置く。

#### エコマネーの役割

エコマネー・地域通貨は市場メカニズムの外側から人々の相互扶助、信頼関係、ネットワークの形成という「目に見えないもの」を地域に根付かせ、蓄積し、発展させる力を持っている。「社会関係資本」の実現手段として位置付けられ、「持続可能な発展」への大きな可能性を秘めていると締めくくられました。



## 話題提供

「エコマネーどんぐり」がつかなくふるさと活動  
瀬戸川フォーラム 代表 山田 辰美



瀬戸川フォーラムの行っている「どんぐり」は、瀬戸川フォーラム内のコミュニケーションツールとして4年前のイベント内で参加者の増加と楽しみ、農家の参加(農産物)促進として始めました。意味も分からないままお遊び感覚で使ってみました。参加者や農家から大変喜ばれました。

会では次年度以降も継続する仕組みを検討して、瀬戸川の河川愛護活動をしている小学校や中学校に「どんぐり」を配布して奉仕活動に感謝の意を表しました。その「どんぐり」は「せと川フォーラム」において、無農薬栽培の手打ちそばや染飯おむすび、いなり寿司などと交換できる仕組みとしました。

今回のフォーラムでは様々な団体間の交流活動を通じて「どんぐり」が交換される場面も表れました。流域内の様々な団体を結ぶ、緩やかなネットワークを構成するツ

ルとして交流通貨「どんぐり」をこれからも広めていき、流域内のふるさと活動のさらなる活発化を願い、流域の望ましい姿を考える場を提供していくつもりです。今回のエコマネーの勉強会における「どんぐり」の流通は96どんぐりでした。



グループナチュラルさんによる手作りパン・クッキーとどんぐり交換。おいしかったねー。



大学生も参加してくれました

#### 事務局のまとめ

酒井先生の講演で一番印象に残ったこととして「社会関係資本(ソーシャルキャピタル)」の重要性と言うことです。これは、新しい「資本」概念 社会に存在する個人や集団内のネットワークやそこに存在する「信頼」や規範といった「目に見えない」ものに着目し、これらを社会の成長、発展、開発にとって有用な「資本」であるとする概念です。次の3つの要素からなっています。

- 1、ネットワーク: 人と人とのつながり
- 2、規範: 「お互いさま」「有難う」という互惠性規範
- 3、信頼: 人は信頼できるという「一般的信頼」と、知らない人よりも知っているほうがずっと信頼できるという「個別的信頼」

ソーシャルキャピタルの醸成には「ボランティア活動」などの市民活動が欠かせないようです。

今回の勉強会で酒井先生より教えて頂いた「社会関係資本」のことについては、もう少し深めていきたいと思っております。

#### 交流通貨「どんぐり」のさらなる普及活動の展開と社会関係資本の蓄積

瀬戸川フォーラムは、流域内のふるさと活動団体(環境保全、教育ボランティア、地域活性化など)の活動との積極的な連携を進め、「どんぐり」の循環を目指してい

きます。そのためにも「せと川フォーラム」の開催を通じて広く、交流通貨「どんぐり」のあたたかさを実感してもらう機会を多くの人に体験してもらうことが必要と考え、来年度当初より積極的なPR活動を行っていきたくて考えております。

人とひとの絆づくり、信頼関係の構築にと「どんぐり」を有効なツールとして「社会関係資本」(ソーシャルキャピタル)の蓄積に生かしていきたいと考えております。

地域のために活動している子ども達がいたら瀬戸川フォーラムに是非教えてください。環を広がりたいと思っています。



元井エコアップ(2月26日)

## 開催趣旨 ふるさと活動をより深めるために

ふるさとの野山に群れて遊ぶ子どもたちを見かけなくなって久しい。心身ともにたくましく感性豊かな子どもたちを育てるために、地域固有の自然環境を生かしたふるさと活動を支援する一つの取り組みとして、あたたかい通貨「エコマネー」を普及するために今回の勉強会を開催しました。

